

令和7年度 第3回銚子市介護保険事業等運営協議会 議事録

日 時 令和8年2月19日（木） 午後2時30分から3時25分

場 所 議会棟全員協議会室

出席委員（委員総数16名中12名出席）

実川委員、高橋（玲）委員、浪川委員、兒玉委員、田代委員、鶴月委員、宇佐美委員、伊藤委員、鈴木（一）委員、宮澤委員、青柳委員、鈴木（真）委員
（欠席委員：泉委員、高橋（宏）委員、小澤委員、菅谷委員）

出席職員

小保方課長、井上補佐、林補佐

菱木主査、加瀬主査、江波戸主査、鈴木主査、木藤主任保健師、飯塚主任保健師、竹山主事
加藤東部地域包括支援センター長、岩瀬中央地域包括支援センター長、峯岸西部地域包括支援センター長

【交代委員紹介】

銚子市民生委員児童委員協議会推薦委員の交代を報告

【議事】

- (1) 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画に記載した施策について（資料1）
- (2) 委託型地域包括支援センター業務の評価、点検について（資料2、当日配布1）
- (3) 銚子市地域包括支援センターの公募結果について（当日配布2）
- (4) その他

【要旨】

- (1) 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画に記載した施策について（資料1）

質疑・意見	事務局回答など
（田代委員） 短期集中の介護予防プログラム「リエイブルメントプログラム」の対象者や具体的な実施内容はどのようなものか。薬剤師会においても介護予防の啓発を行っている。	対象者は、日常生活に少しずつ支障を感じ始めるような方で、要支援1、2の認定を受けている方、または基本チェックリストで該当する方になる。利用するには、認定を受けるか、基本チェックリストで該当になることが必要。相談窓口は高齢者福祉課もしくは地域包括支援センターとなる。 「リエイブルメント」とは機能を回復する、生活の能力の向上を目指すこと。

(児玉会長) 費用についてはどうか。	毎週 1 回、通いもしくは家庭訪問を行い、リハビリ専門職または医療職がアドバイスをしながら機能回復を図るプログラムを 3 か月実施して評価していく。 介護保険と同等もしくは介護保険より安価な自己負担となる見込み。
(宮澤委員) 権利擁護支援のイオンしおさいプラザで開催された市民向け相談会の相談件数は何件か。 内容は権利擁護に特化した相談会になるのか。 以前、さざんか園が介護に関する相談会を実施していた。介護全般に関する相談も受けていただきたい。	事前予約の相談は 1 件、その他 3 ～ 4 件程度であった。 権利擁護や成年後見制度以外の相続に関する相談も受けている。 介護に関する相談もあったと聞いている。
(伊藤委員) 医療と介護関係者の情報連絡ツール Logo チャットの具体的な情報交換、情報収集の内容はどのようなものか。また、アカウント配布数 1 6 8 の目標とする数値の進捗率はどのくらいか。 1 6 8 アカウントの実際の使用状況はどうか。 (児玉会長) ケアマネジャー、医療関係者、在宅サービス、施設サービス提供者でグループを作成でき、グループ内での情報や、やり取りは外部に漏れないため、市側でも把握できない部分があるが、実際はかなり、やり取りがある。 また、携帯で見ることができ、通知音で新着を確認でき、診療中の合間や時間がある時に確認できるため便利である。 しかし、緊急性を要する場合には使用できないため、その際は電話やファックスが優先される。	具体的なトーク内容は、そのチーム（トークルーム）に入っていれば把握できるが、市の想定としては関係者間での情報連絡や支援時の状況の報告になり、随時、必要時に使用していただくこと。 当初予定していたアカウント数は 2 0 3 アカウントで配布しているアカウント数は 1 6 8 アカウントになり、配布状況は約 8 3 パーセントになる。 具体的な使用状況は把握していない。慣れるまでは活用が難しいため、電話やファックス、メールと併用しながら状況に応じて使用されている。

運営のコスト負担について市が相応の負担をしている。将来的には、歯科医師会や薬剤師会にも広げていきたいという理想はあるが、実現するかどうかはまだ不明確な状況である。	
(児玉会長) 最近の傾向として、自宅の電話に出ない方も多いと思うが、その際の連絡方法はどのようにしているのか。	実態把握時の連絡方法について、数回、電話しても連絡が取れない場合は、直接自宅を訪問することが多い。今年度の実態把握では、不在の時にチラシを入れておくことで連絡をくれる方が増えた傾向が見られる。

(2) 委託型地域包括支援センター業務の評価、点検について（資料2、当日配布1）

質疑・意見	事務局回答など
(児玉会長) 地域連携について、向こう三軒両隣のような住民同士の繋がりが難しく、災害時に助けられないなど課題があり、民生委員も苦慮していると聞く。住民同士の関係性を良くするような取り組みがあるか。	住民同士の繋がりについては把握が出来ない部分である。東部地域では今年度7名の孤独死があり、その内の4名は近隣から姿が見えないなどの連絡があった。包括支援センターが困った時の住民の相談窓口として周知はされていると評価している。 地域によって繋がり強い地域と全く薄い地域というのが、明らかに差が出てきている。何か集まる機会がある地域は一致団結して互いに把握されているが、集まりもなく外に出かける機会もない地域では町内会にも入っていない方が多い。 プラチナ団体や移動販売による見守り協定、新聞配達業者（読売新聞・朝日新聞）からの情報提供、2層の協議会のメンバーからの連絡など複数の連携体制で対応している。新聞が溜まっていることが発見され、救急搬送が必要な状態の方もいた。 地域の繋がりの中で情報を共有し、必要に応じて連絡する体制を整えている。ポツンと一軒家のような方や、60～70代前半で健康状態が悪い方が把握されにくく、計画的な対応が必要である。 防災について、個別避難計画の策定に向けて、一部の地域であるが、町内会や民生委員と町内の要

(実川委員) 愛宕町町内会は市内でも高齢化率が高く要支援者が多いことから5年前から避難訓練を実施しているが、年々、参加者が減少している。愛宕町は高台にあり津波の心配がないのが原因として考え、昨年度は在宅避難を中心に実施した。全世帯に黄色いタオルを配布して、災害時に自宅が大丈夫であることを示す取り組みを行い、約8割の世帯の協力があつた。避難訓練をとおして、町内の友好が出来ればと考えている。	支援者の状況を共有し、災害時の支援計画を検討している。高齢者福祉課、地域包括支援センター、ケアマネジャー、危機管理室が連携している。生活支援コーディネーターと地域包括支援センターが協働して、地域の中に協議会を作り、地域の現状や課題を話し合う取り組みを進めている。東部、中央では今後進める予定で、西部ではすでに実施中である。
---	--

(3) 銚子市地域包括支援センター公募結果について（当日配布2）

質疑・意見	事務局回答など
質問や意見は特になし。	

【高齢者福祉課長 あいさつ】

委員の任期中最後の会議となるので、3年間委員としてご協力いただいたことへの感謝と引き続きのご協力をお願いのあいさつ。

【その他】

次期委員の委嘱について、4月上旬に推薦、就任依頼の予定とし、会議終了とした。